

# 京都教区時報

Home Page http://www.kyoto.catholic.jp 4345

京都教区広報委員会  
編集長 村上透磨  
京都市中京区  
河原町通三条上る  
TEL 075-211-3468  
FAX 075-211-4345  
kouhou@kyoto.catholic.jp

2頁 魅力ある教会って??(宇治教会)

3頁 施設紹介 特別養護老人ホーム 真愛の家寿荘

4頁~9頁 中学生広島平和巡礼/高校生夏合宿/A Y D 感想文

点訳版「京都教区時報」(無料)  
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。  
TEL・FAX 0794-31-8601

## 9. 貧しさを自由に生きる

2014年 司教年頭書簡 神の「貧しさ」を生きる

私が貧しさを自由に生きることによつて、現代の富にとらわれた世界に批判的反省を促す力を持っているのでしょうかと問いかれます。貧しさを自由に生きる模範(モデル)として、奉獻生活者の例があげられていますが、奉獻生活者の証は、拝物的な生き方に汚染(?)されている現代への、一つの批判なのでしょうか、それとも、最高の宝である神への、純粹な愛の奉獻のしるしなのでしょうか。

今回のテーマ「貧しさを自由に生きる」という意味は、キリストの貧しさの意味を知つて、本当の貧しさが分かつた人は本当に自由になれるんだよ、という意味なのでしょう。

そういうえば前回の「喜んで貧しくなる」も同じこと、つまりキリストの貧しさを本から喜びに生きることが出来て、本当に知つたら心が福音なんだよと言つて下さっている。今回も同じようにその喜びと自由を証して生きている人々がいる、



それが奉獻生活者の証、即ち「福音的勧告に生きる」姿なのでしょう。彼らは清貧・従順・貞潔の誓願を立て、それを実践していますが、それは全く自由に全てを献げて生きる愛の奉獻の証なのです。貧しさに徹するということは地上に生きる人間にとつて不可能に近い、でも「それも出来るんだよ」と証しし、勇気と励ましを与えてくださっているのです。

もう一つは、「終末論的動機」を持つ信徒的、預言的な「貧しさ」を目指すと言つていることです。これはおそらくこういうことを言つてゐるのだと思います。私たちが天国と呼ぶ完成された至福の状態を先取りするもの、つまり、「その時、人はめどりになる」とつぐこともなく天の使いのようになる」(マタイ22・30)と言う。天使とは、ミカエル(神こそ主)のように完全に主に仕えて讃美し、礼拝し生きる存在を指すのです。天使たちのその生き方は天国を象徴する。また人間は天国の至福の状態を十分に言い当てるとは出来ない。だから、それを象徴的に語る(黙示録19・21参照)。その中で「魂は清く汚れない白い衣を着せられた花嫁(乙女)」として描かれている。実際に奉獻生活者はこの天国における至福の先取りなのです。最後にそれは隠された高価な真珠だと言えます。これは先月のテーマで語られたこと…。

(村上透磨)

10  
2014

シリーズ  
小教区

## 魅力ある教会って?? (宇治教会)

ー御言葉を大事に、交流を大事に、皆が集まる、開かれた教会ー

私達のカトリック宇治教会は、宇治という豊かな文化と自然の中、「日本二十六聖人殉教者」を保護の聖人とし、神様の恵みにつつまれて、祈り・学び・分かち合いにより、来年創立60周年を迎えるまでに成長してまいりました。

現在、信徒が減り、社会と同じように高齢化となっています。しかし、教会も共同宣教司牧となり、山城ブロックの五つの教会で協力し合い、信徒がそれぞれ、いろいろな所で活躍しています。一昨年、山城ブロックに国際協力部ができ、1年を通して外国人信徒と日本人信徒の交流を持っています。特に8月10日前後の宇治川の花火大会には宇治教会に、100人くらいが集まり一緒にバーベキューをして、花火を見、楽しい一時を過ごします。残念ながら、今年は台風のため花火は中止となりましたが、103人が集まり、予定通り一緒にバーベキューをし、交流することができました。(写真)

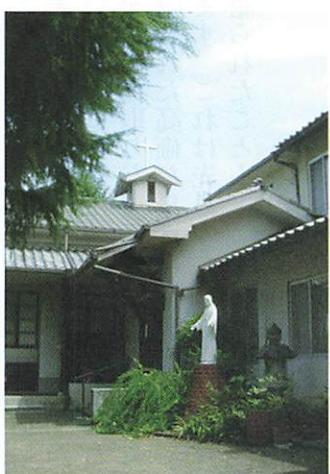
また、開かれた教会を目指し、この3月から、留守番当番を信徒が交代で行い



観光地なので、外国の方や他府県の方も聖体訪問してくださることもあります。誰も来られないときがほとんどですが、教皇フランシスコの「小教区の門は開けておくように」との呼びかけに従って、今後も続けていこうと思っています。

主日のミサには70人くらいの方が来られます。子供は少数ですが、外国人の方が来られるようになりました。交通の便が悪い方や高齢の方には、乗り合いで送迎をして、一緒にミサに与れるよう協力しています。

入院や施設に入つておられる方など教会に来られない方もおられます。聖体授与の臨時の奉仕者に任命された10名の



方が、病床訪問奉仕者グループとして、御聖体をお届けしています。病床訪問奉仕者は、月に一度は集まり、祈り、分かち合い、そして病者訪問の状況などの話し合いを持つています。高齢化が進んでいる中にあって病床訪問奉仕者の役割がますます必要だと感じています。幸い今年は若い方が入つてこられ活気が出ています。

また、車椅子に対応するために、聖堂入口にスロープを設置、トイレの改修も行いました。

「わたしの名によつて、二人三人が集まるところにわたしは居る」というキリストの御言葉のように、病気の方も、体の不自由な方も、子供も大人も、日本人も外国人も、信者も未信者も集まり、キリストの御言葉を聞くことを大事にし、キリストのいくしみを体験し、その喜びを宣べ伝えることによって、宇治教会の魅力が生まれてくると感じています。



真愛の家 寿荘 正面

毎週火曜日は、施設内でミサ  
5月と10月には、聖母行列の  
後ルルドの前でミサ

「観想修道会といえども地域の福祉に役立つ活動を」という第二バチカン公会議直後の思いがけない通達を受けて、観想修道会であるレデンプトリスチン修道会のシスター達は、教会や行政からの助言と要請を受けながら、祈りのうちに検討を重ねられました。その結果、当時この地域に最も必要とされた特別養護老人ホームの建設を決められ、1968年(昭和43年)、舞鶴市の現在地に京都府下で第1号の特別養護老人ホーム、「寿荘」を設立されました。

ところが開設から1年半後、レデンプトリスチンのシスターは、北海道からも特養建設の要請を受けて拠を移されることになつたため、同じ舞鶴市で教育事業に携わっておられた聖母訪問会のシステムが開設から1年半後、レデンプトリスチンのシスターは、北海道からも特養建設の要請を受けて拠を移されることになつたため、同じ舞鶴市で教育事業に携わっておられた聖母訪問会のシス

ター達に寿荘の運営を依頼され、引き継がれることになりました。

それから20年余、「特別養護老人ホーム寿荘」は、聖母訪問会のシスター達によって舞鶴市にとつてなくてはならない高齢者福祉施設に育て上げられました。が、聖母訪問会のシスター方は、会そのものの在り方を見直される中で、「事業経営」は修道会の本来の任務ではないと考えられるに至り、それまで経営してこられたすべての事業所について、理念を同じくする他法人に移譲することを決定され、それぞれ移管作業に入られました。しかし、特養寿荘については既設の法人を受け手がなかつたため、舞鶴の教会関係者や福祉関係者の協力を得て新法人を作ることとなり、1991年7月、京都府の認可を受けて新しい「社会福祉法人真愛の家」が設立され、特別養護老人ホーム寿荘が移管されたのです。真愛の家は、このようにして「寿荘」の経営を受け継ぐためにできた、まだ歴史の浅い社会福祉法人です。

その後、時代の要請を受けて各種の在宅福祉サービスを加えて行くとともに、特別養護老人ホームも2002年に全面増改築し、舞鶴市の要望を受け入所定員110名、短期入所15名とそれまでの2倍の施設になりました。現在は、他に、認知症グループホーム、デイサービス、ホームヘルプサービス、居宅介護支援事業所、小規模多機能事業所を運営し、地域包括支援センターを舞鶴市から受託しています。

「神の賜物であるいのちの尊さに仕えること」を法人の基本理念とし、最も困っている人、最も苦しんでいる人に率先して手を差し伸べていこうと、代々のシスター達の思いを受け継ぎながら、カトリック施設としての在り方を模索して

施設紹介

社会福祉法人真愛の家

## 特別養護老人ホーム 真愛の家 寿荘



毎年8月第1金曜日に夏祭りを開催し、利用者・家族・ボランティア・地域の方・職員で大いに盛り上がります。

広島平和巡礼に参加して  
3年生 唐崎教会 永井絵美梨



今年は3度目の合宿になりました。一年生から広島に来ていますが、何回ここに来ても、戦争の事についてや、平和とは何なのかいろいろ考えさせられます。私はまだ中学三年生で、世界中に起きている問題ははっきりと分かっています。中止のままで、「平和」には遠い所にいるといふことです。

私はこの合宿で、ゆっくりと広島の原爆についての資料を読みました。今回が初めて行くわけでもないのに

日本に原爆を落とすとアメリカに思われたのは、日本自身ではないかと思いましたが、原爆で戦争を終わらせようとしたアメリカもやりすぎだと思いました。戦争を終わらせる方法は、他に話し合うなどがあつたのでないかと思います。もう一度と長崎や広島に起きた悲劇が起こらないように祈りたいです。

今回の合宿の分かち合いでは「平和」とはなかと考えました。ほとんどの人は「平和」＝「戦争が無い」と結びつくよう思っていましたが、それがすべてではありませんでした。今回が初めて行くわけでもないのに



また新たな発見をして、疑問に思ったことを解決できました。今までに二回同じ場所を見に行つたことがあったのに、また新たなことを発見することが出来たので驚きました。今回、平和記念資料館に行き、思つたことは、アメリカが日本に原爆を落としたのは、日本があまりに太平洋戦争で暴れすぎたため、早く戦争を終わらせたかったからなのではないかと

日本に原爆を落とすとアメリカに思われたのは、日本自身ではないかと思いましたが、原爆で戦争を終わらせようとしたアメリカもやりすぎだと思いました。戦争を終わらせる方法は、他に話し合うなどがあつたのでないかと思います。もう一度と長崎や広島に起きた悲劇が起こらないように祈りたいです。

今回の合宿の分かち合いでは「平和」とはなかと考えました。ほとんどの人は「平和」＝「戦争が無い」と結びつくよう思っていましたが、それがすべてではありませんでした。今回が初めて行くわけでもないのに

私はこの夏、合宿を過ごしてみんなの意見や「平和」に関して前より分かったのがうれしかったです。これからも「平和」や「戦争」について考え、今から私に出来ることをしたいと思いました。

3年生 唐崎教会 田中 拓実

3年続けて来て思つたこと。それは、来る回を増すごとに原爆への恐怖が増すことだ。1年目に来たときは、衝撃を受けた。こんなにもむごいことが、何故出来るのか。2年目には、1年目のような衝撃はあまり感じず、むしろ原爆についてより知ろうとしていた。今回の3回目、原爆についてよく知った。今そのむごさ、無常さがより感じられた。直視出来ずに目をそらさなければいけない程だった。

3年生 唐崎教会 永井絵美梨

## 中学生広島平和巡礼 感想文



私はこの夏、合宿を過ごしてみんなの意見や「平和」に関して前より分かったのがうれしかったです。これからも「平和」や「戦争」について考え、今から私に出来ることをしたいと思いました。

3年生 唐崎教会 田中 拓実

しないが、最近世界全体が戦争の方向に向いていると思う。イスラエルによるガザ侵攻、集団的自衛権など、一步間違えば全面戦争に発展しかねないことばかりだ。国連も、結局は武力で終わらせようとしている。「平和」という言葉が、土足で踏みにじられているような気がする。

この広島で伝えたいことが、世界に全く伝わっていない。まあ、広島がある日本でさえ武力に頼ろうとしているのだ。当然のことだろう。そもそも、自衛隊こそ、GHQの方針で出来たものだ。日本がつくった訳ではない。今すぐにでもなくなつていよいのではないだろうか。

平和は、抑止力がなくては実現しないという。だが平和とは何なのか。押さえつけてこそあるものなのか。僕は、それは憎しみを生むだけだと思う。そんな「平和」は偽物である。武力に頼らない「平和」こそ、真の「平和」だと僕は思う。



1年生 河原町教会 平野 有理

大塚 乾隆 神学生

今回、私は初めて広島に行きました。平和について学ぶために。

初めて身近で済州（韓国）の中学生と交流して、すごく仲良くなれたと思ってます。今回のテーマは平和への道ですが、私はそれと済州の方との交流も同じくらい大切にしたいと思いました。

戦争では、日本人はもちろん、韓国の方もたくさん亡くなつたということが分かりました。共に過ごしている友達と同じ国人人がたくさん亡くなっているのは、すごく悲しいです。（もちろん世界中だれでも悲しいことです。）でも同じ國民としての悲しみは、はかりしれません。その過去を知っていても仲良く過ごせるのはいいことだと思いますし、私もすごく嬉しいです。こうしてわかりあえる仲間が一人でも増えることを願っています。

8月6日の朝と夕方に原爆ドーム周辺



私は多くの人の平和を伝えようとする熱い思いを感じ、自分が原爆について何を知っているのか、どれぐらいそのことを伝えようとしているのかを考えました。このことを考えていると、イエスの死と復活について初代



数年前から、被爆者証言をする語り部の高齢化が報じられています。次の世代に戦争のおそろしさはどうやって伝えていくかが問題となる中で、語り手を育成することや本や物証を使って伝えることがなされています。しかし、来年で戦後70年を迎える今、戦争を体験したり、その悲惨さを直接聞いたりした人が少なくなりました。私が小さい頃は考えられませんでしたが、残念ながら今では被爆者証言をする人へのヘイトスピーチが生じています。まずは戦争や原爆の危険性そのものを説明することが求められているのでしょうか。

教会が歩んだ道  
のりと重なると  
ころがあるよう  
に思いました。

教えを伝えます。しかし、イエスの死と復活を共有した人たちが少なくなることで、本当にイエスの復活があつたのかと疑いが生じたのでしょうか。パウロは「リント書15章で、「最も大切なこと」としてパウロ自身も受けた「キリストの復活」を著します。彼らはイエスの教えを何よりも大切にし、それを伝えることを第一の使命だと考えました。私は神学院での生活を通して、イエスについての知識を深める道を歩んでいます。しかしながら、広島で平和を訴える人たちほど、私はイエスの教えを宣べ伝えていないことを反省しました。



ようとしたように、イエスとの生きた交わりを深めることで、私たちはイエスの教えを人々に伝えていけるのだと思います。原爆による被害は、多くの場合その悲惨さを目で見ることができ、だからこそ伝えなければならないという強い思いを生みます。私たちが受けた洗礼の恵み、御聖体によるイエスとの人格的交わり、個々人の救いの体験は目で見えにくいものではありますが、私たちは確かにこれらのこと経験しています。今年の平和巡礼を通して、イエスについて知ることと、自分の体験したことを伝えるために、イエスとの関わりを強くすることが大切であるということを学びました。

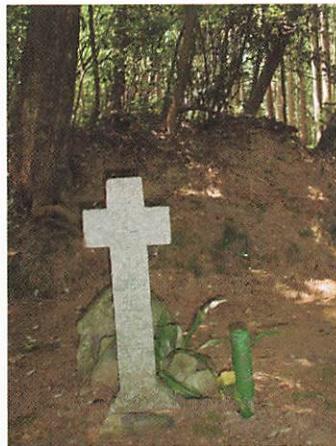
高山右近の巡礼を通して感じたこと



最後までキリスト教を信じていました。他にも、その時代に生きた人々で、秀吉や家康の命令から逃れる為に、色々な工夫をして生きてきた隠れキリシタンのことを思うと、当時のキリスト信者はすごく信仰が厚かったんだと感じられました。それと比較すると、今の人々はミサに行ける世の中になっているのに行かない人が増えている気がします。この話だけでも似ていません。今回右近の巡礼を通して、このようなことを強く思いました。

私達が今大切にしなければならないのは、戦国時代に生きて、隠してまで守り続けたキリスト教、そして一番大事な信仰だと思います。





高山右近の小指が埋葬されている墓

今回の高山右近の巡礼で改めて高山右近は私たち信者にとって関わりが深く、とてもすばらしい方だと思いました。私は今年の秋に奈良地区で行われる「義の人ユスト高山右近」の劇で右近の妹を演じます。なので、知ってる事が多く今回の巡礼では色々なお話を興味深く聞くことができ、また劇の背景を少し想像することにもつながりました。そして、今回の巡礼の中で「本行寺」を訪ねた時のことが印象に残っています。隠れキリストの寺とされる本行寺で様々な資料を見た時、私は昔のキリストの方々がキリスト教を守っていなければ、今私がキリスト教を信仰することもなかつたのかなと思いました。また、キリスト教を信仰していくよかったです。高山右近の小指が埋葬されていると題だと感じました。

2年生 大和高田教会 橋本 真優

今回の高山右近の巡礼をしたことによって自分の中で変わった事が2つある。1つ目は、自分の生き方や価値観が変化したことである。今よりも自由に自分が信じたいことを信じることが難しかった時代に、右近は自分の信念を貫いた。今の自分はどうだろうか。自分の信念といふものは持っているけれども、それを貫いているかと聞かれたら貫けているとはつきり言えない。だから、自分の確固たるものを貫くということをしていきたいと思った。

2つ目は、自分の存在というものについてである。人間というものはいずれは死んでしまう生き物である。死んだら自分の存在はどんどん忘れ去られてしまう。しかし、高山さんの家にお邪魔させていた大いに家を拝見させていただくと16代に渡って周りから色々言われたりして苦労をしながら受け継いでいっていることが分かった。自分の存在が代々受け継がれて欲しいなどそのような欲求があるのではない。しかし、生きていく上で自分の存在が後世の人にも認められるようになりたいと思つた。

これまで、列福や列聖などはどういうものなのかもよくわからないまま、高

山右近の63年的人生のうち半分近くの26年間を過ごした金沢へ実際に訪ねて、前学習へ参加し、大塚司教様や高槻教会の方から多くの事を教わりました。さらにはこの合宿で高山右近の63年的人生のうち半分近くの26年間を過ごした金沢へ実

最後に、一緒に参加したメンバー、現地でお世話になった方々、今回の巡礼を通して出会ったすべての人々に感謝の意を表し、終わりとします。

3年生 唐崎教会 新田理紗子



高山右近について研究もされているガイドの方に高山右近のゆかりの地を案内していただきました。

この巡礼合宿を通して特に感じたのは、高山右近は、心の底から神に仕えていたのだなということでした。もし私が同じ立場だったら、自らの地位や家を捨ててまで、キリストのことを感じることができたかどうか自信がありません。とうか無理だったと思います。

ただ信じるだけでなく、心の底から神に仕えることができるよう、日々生活していきたいです。



して一番強く感じたのは、右近や隠れキリストンとなつた人々の信仰心の深さである。禁教下において、上からの命令で、見つかつたら命が危険にさらされるにも関わらず、彼らは信仰をとつた。正直自分だったらそうできないと思うが、彼らの偉大さを感じたし、今まで特に考えたことのない信仰というものについて考える機会になつたと思う。

この巡礼の中で隠れキリストンの寺の中にキリスト教の資料がたくさんあって変な感じだったが、住職さんが「代々キリスト教を寛大に守ってきて、今でもたくさんの方の資料が残っている」といっておられて、排他的にならずにお互いを受け入れて共存している姿がとても印象に残った。クリスチヤンの人が少なくて、日常生活で疎外感を感じることが少なからざる中、「信仰する宗教は違つても信じる心は同じ」という住職さんの言葉がとても心に響いた。高山右近やその他のことに関しても宗教という枠にとらわれず、たくさんの人と分かち合つていけるようになればいいなと思う。

3年生 西院教会 粟井睦

今年の夏の高校生会はキリストン大名である高山右近が長い間過ごした金沢への巡礼でした。金沢教会の、右近に詳し

もかかわらずキリスト教や右近に詳しく述べ、私たちは、右近が苦労してキリスト教を守つて来たことを聞きました。私は幼児洗礼なので、今まで常に近くには教会の存在があり、無意識のうちに教会が私の人生の支えになつていて、自分がキリスト者で良かったと思つていますが、日本にキリスト教が仏教に負けずに存在しているのも右近達キリストンが守つてきただからだと思うと、彼らの偉大さに驚くと同時に、彼らは日本のキリスト教においてなくてはならない存在だったのだと思つて強く感じました。右近の信仰の強さは驚きですが、逆に混乱した世の中であつたからこそキリスト教が社会を生き抜く支えになつていたと思います。だから私たちの生きる現代も不安定になりつつあるので、右近のように強い信仰をもつていきたいです。

い方に石川県の各地を案内してもらいました。右近が信仰したマリア像や、右近の像などを多数保存している本行寺というお寺に行きました。住職さんたは弘法のへこ



たちの栄光が  
若者。殉教者  
よ、アジアの  
マは「目覚め  
た。今回のテ  
YDの開幕ミ  
サを祝いまし  
地に入り、ア  
ジア各国から  
の青年数千人  
と合流し、A  
ジアの「殉教者  
たちの栄光が

8月9日から18日まで、韓国で開催された第6回アジアン・ユース・デー(AYD)の行事に、京都教区の青年たちと共に参加させていただきました。はじめの4日間は、濟州島でホームステイをし、濟州教区の神学生や青年の方々のお世話になりました。島内を巡り、歴史や文化や自然を学び、各教会でミサを祝い、祈りの時を持ち、あたたかな交流の時を持つことができました。13日に濟州島を発ち、ソルメ聖

殉教者のアジア(AYDに参加して)

菅原 友明 神学生

あなたに輝く。」というものでした。期間中、ソウルでは、韓国の124人の殉教者の列福式も行われましたが、アジアの国々は歴史の中で、数えきれないほど殉教者を出しています。まさに「殉教者のアジア」であり、その栄光を礎として、今の私たちの教会があるのだということを、あらためて実感しました。

AYDは、



歌や踊りや演劇など、華やかなパフォーマンスにあふれていて、アジアの教会の若者たちのパワーに圧倒させられましたが、一見派手にみえるプログラムの土台にあつたのは、「殉教者たちの信仰」というしつかりとしたテーマでした。深夜にも及ぶ強行スケジュールをこなしてゆくうちに、私たちは自らの信仰を見つめ、そこに殉教者の心の光が間違いなく輝いていることへの気づきへと招かれてゆきました。

殉教とは過去の語り草ではなく、神様のため、他者のために死ねば、永遠の命、本当の私を生きるという、時代も国

境も超えたキリスト教の本質です。韓国で初めての司祭となつたキム・デゴン神父は、「私は主のために死にます。でも、これは、永遠の命が私にはじまることです」という言葉を遺し、25歳の若さで殉教しました。

15日の夕方、私たちはソルメ聖地にフランシスコ教皇様をお迎えしたのですが、キム・デゴン神父の生家の前で、教皇様が目を閉じて、静かに祈っていた姿が印象的でした。キリストの命を生きるはどういうことなのか、心の中にしみ込んでくるような気がしました。16日のミサで「キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると私は信じます」(ローマ6・8)というパウロの言葉が朗読されました。この言葉を、今回AYDに参加した多くのアジアの若者たちが、理屈を越えて味わい、共有することができたのではないでしょうか。次回のAYDは2017年にインドネシアで開催されます。



アジアン・ユース・デー  
感想文

## 2014年 教会学校研修会

8月30日（土）河原町教会ヴィリオンホールにおいて、京都教区教会学校研修会が行われました。教会学校リーダー、および教会学校の活動に関心のある53名が、21小教区から参加しました。テーマは「なぜ、教会学校？」で、大塚司教様が、「講師としてご指導くださいました。」司教様は、まず「子どもにどんなキリスト者になつてほしいのか」というビジョンを持つこと、信仰とは人が神からの愛の呼びかけに応えることだと語られました。そして、子どもの信仰教育について「選び」と「信仰のセンス」の2つに分けてお話し下さいました。

人間は、その人生の中で、常に何かを選び取つて生きているが、その「選び」は神のみ旨、信仰、福音を基準に神から与えられたもの、その「生き方」を選んで、その「生き方」を選ぶことが、福音を手助けしていくことであると述べ



されました。「選び」について、この「選び」に具体的に説明されていました。司教様の講話の後、小グループに分かれて、子どもにとっての「選び」について話し合いました。



また、「信仰のセンス」の12の特徴と要点を丁寧に説明してくださいり、この12の特徴と「信仰教育」の要点を、教会学校の活動と照らし合わせながらまとめる作業を、小グループに分かれて行いました。この研修会をとおして、『神さまにつくられ、愛されているから生きている』ということを子どもたちに伝えることの大切さ、そして、その大切な使命と恵みを教会学校リーダーはいただいていることに、あらためて気づかされました。

会場は終始、和やかで、楽しい雰囲気に包まれ、司教様は最後に、教葉をくわり、参加者はそれぞれの力で、希望をもつて奉仕することを手助けしていくことを手助けする」と述べ



## 田中健一司教様の靈名の祝日

高野教会 嶋 雅子

カトリック高野教会での8月31日の主日ミサは、田中健一司教様の司式で行われました。この日は、田中司教様の靈名の聖人、ライムンドの任意の記念日で、今年は主日と重なりました。また、司教様の87回目のお誕生日でもありました。久し振りにお姿を拝見できることを楽しみにしていました。入祭の時、杖を持ちながら堂々としたお姿で、行列して来られたには驚きました。そして、お説教は「自分が頂いている洗礼名の聖人を、よく調べて取り次ぎを願ってください」という分かりやすく日常生活に直ぐ取り入れられる内容で、私の心中に強く留める事が出来ました。

司教様と私の父は同い年です。父は10年前に他界しているからでしょうか、司教様と父の面影が重なり、とても親近感があります。司教ハウスの前を通ります。これからも司教ハウスの前を通ります。これからも、お元気で、おられますようにと祈りながら車を走らせていました。

## 10月のお知らせ

## 教 区

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊣㊣

## 聖書講座

「神に生かされて」—聖書にみる貧しさ—

日 時：8日㊣ 19:00 9日㊣ 10:30

テーマ：マリア

講 師：柳田 敏洋師(イエズス会)

日 時：22日㊣ 19:00 23日㊣ 10:30

テーマ：異邦人の使徒パウロ

講 師：鈴木 信一師(聖パウロ会)

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

## よく分かる聖書の学び

日 時：15日㊣ 10:30

講 師：北村 善朗師

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

参加費：300円

## ブロック

## 奈良ブロック協議会

## 聖書講座

「キリスト者の信仰を支える旧約のことば」

日時会場：10日㊁ 19:00 大和郡山教会

11日㊂ 10:00 奈良教会

テ ー マ：語りかける神

講 師：ザビエル・スサイ師(神言会)

日時会場：24日㊁ 19:00 大和八木教会

25日㊂ 10:00 奈良教会

テ ー マ：主と民の愛の関係

講 師：一場 修師(マリスト会)

## 修 道 会

## 男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

## 社会人のための靈的同伴(松田 浩一師)

日 時：3日㊁ 20:00～4日㊂ 15:00

参加費：6,500円

## 水曜黙想(松田 浩一師)

日 時：8日㊣ 10:00～16:00

テ ー マ：キリストの教え(神と共に歩む)

参加費：3,000円(昼食代他)

## 一般のためのカルメル靈性入門(松田 浩一師)

日 時：14日㊣ 17:00～15日㊣ 16:00

テ ー マ：イエスの聖テレサ生誕500周年開始

参加費：7,000円(宿泊・食事込)

## 聖ドミニコ女子修道会(京都修道院)

Tel.075(231)2017 Fax.(222)2573

## ロザリオを共に祈る会

日 時：17日㊁ 10:30～12:00

## ノートルダム教育修道女会(唐崎修道院)

## 召命黙想会

日 時：11月 8日㊁ 15:00～9日㊂ 15:30

テ ー マ：主よ、お話しください。僕は聞いております。

愛しあうこと、ゆるしあうこと

指 導：山内 十束師(御受難会)

対 象：独身女性信徒／費用：2,000円

締切り：11月 2日㊁(事前申込要)

申込み：Tel.077(579)2884 Fax.(579)3804

## 諸 団 体

## 京都カトリック混声合唱団

練 習：12日㊁ 14:00／25日㊁ 18:00 ミサ奉仕後

カトリック会館 6階

## コーラ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：9日㊣／23日㊣／30日㊣ 10:00

カトリック会館 6階

## 聴覚障がい者の会

## 手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：21日㊣ 13:00

会 場：カトリック会館 6階

## 心のともしび 番組案内

テレビ(衛星.CATV)スカイ A スポーツプラス

毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「イエスとともにだち」

出演は森田 直樹師(仙台教区へ派遣)

ラジオ(KBS京都) ④～⑤ 朝 5:45

⑥ 朝 5:15

10月のテーマ「健康の秘訣」

## 京都南部ウォーカソン

日 時：11月 3日㊁ 10:00～14:30

受 付：8:45～9:30 河原町教会

コース：河原町教会から鴨川沿い往復

寄付先：東日本大震災被災地、

ムリンディジャパン・ワンラブ・

プロジェクト支援 他

## フィリピン台風被害者義援金のお礼

総額 3,291,683円

昨年末より皆様にお願いしておりました上記の募金を締め切り 8月26日、同国パロ大司教区あてに送金いたしました。パロ大司教区より丁重な、お礼状を頂きました。

ここに皆様のご協力を感謝いたします。

教区本部事務局長 北村 善朗

## 京都教区サポートセンター

東日本大震災「大船渡支援」献金報告

8月分 1,571,540円／累計 44,346,970円

※ 12月号の原稿締切り日は10月29日㊣です。

## 大塚司教の

10月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



1日(水) 10:00 中央協 常任司教委員会

2日(木) 特別 臨時 司教総会

4日(土) 10:00 ノートルダム学院小学校  
竣工式

5日(日) 11:00 長浜教会・ポルトガル語ミサ

6日(月)-10日(金) 教区司祭 年の黙想  
(軽井沢 宣教クララ修道会 黙想の家)12日(日) 11:00 「アパレシーダの聖母」  
上野教会・ポルトガル語ミサ

15日(水)-16日(木) 大阪教会管区 司教会議

19日(日) 10:00 京都コリアンセンター ミサ

20日(月)-29日(水) ユスト高山右近 列福祈願  
司教団公式巡礼

## YES 2014

田辺教会 小野 佳織

今年も YES2014が11月8日(土)~9日(日)に行われます。去年のテーマは「Hon ne Cafe 2」。くじ引きで分かち合いするペアをつくり、たくさんのテーマを書いた紙をまたランダムに引いてしました。ペアでの分かち合いなので時間は20分程度。教会に関することから日常の中にあるようなことなどを分かち合いました。1対1で話をすることで、仲の良い人もいれば初対面で話を進めることもあります。最初は緊張してなかなか話が進まない時もありますが、少しずつお題について話していくうちに話もはずみ、気づけば時間がすぎていたり…。

今年の YES2014はどんなことをするので

しょうか？ みなさんに会えるのを楽しみにしています。

YESとは、

Y : Youth (若者)

E : Encounter (出会い)

Enjoy (楽しむ)

Exchange (交流)

S : Space (場所)

の頭文字をとって名付けられ、京都教区の青年の交流の場として、毎年1回開催されています。

